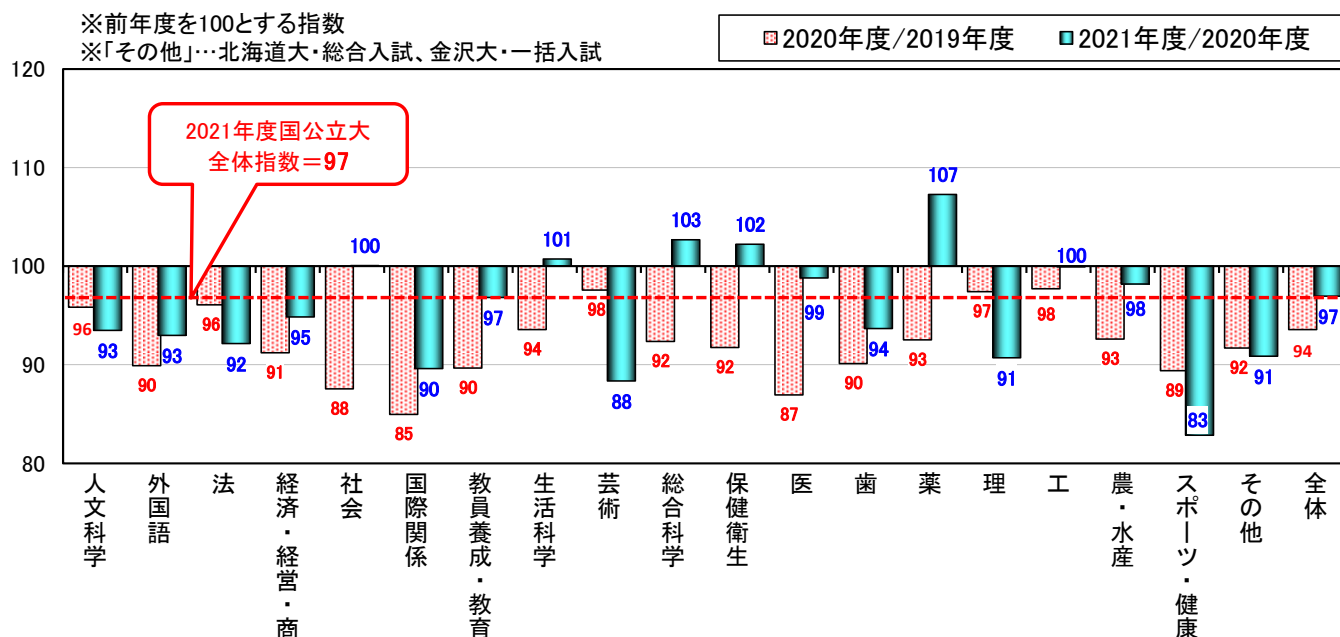


2021 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎系統別志願状況

□薬学系、総合科学系はやや増加



薬(107)、総合科学(103)はやや増加でしたが、これら以外の系統は保健衛生(102)、生活科学(101)、社会(100)、工(100)、医(99)、農・水産(98)は前年度並で、他の11系統は減少で、特にスポーツ・健康(83)は大幅減少でした。

文系の系統では、コロナ禍の影響を強く受けた国際関係(90)は減少、外国語(93)はやや減少しました。また、法(92)は法曹界や上級公務員などを取り巻く厳しい環境による人気低下の影響が継続しており、前年度よりさらに減少しました。人文科学(93)は前年度の減少率が小さかったですが、厳しい経済環境を背景に就職直結型の系統でないことへの不安から減少率が大きくなりました。社会(100)は公立大での大幅増加が目立ち、微増ですが文系の系統で唯一の増加となりました。

理系では、理(91)は厳しい経済環境からより実学的である工への流れに加えて、コロナ禍で個別試験を中止し、共通テストの成績のみで選抜を行った横浜国立大・理工でこの系統に含まれる学科の志願者数合計(45)が半減以下だった影響が大きく、減少しました。工(100)は理で述べた実学志向もあり、人気は堅調でした。前年度は低人気だった農・水産(98)は微減に留まりました。特に、共通テスト重視の配点で、共通テストの高得点を生かそうとした層が流入した山形大・農(280)、宮崎大・農(176)の大幅増加の影響がありました。

メディカル系は、経済環境が悪化する中で、職業直結型の系統であることから人気が高まりました。医(99)は近年入学定員の増加で間口が広がり、既卒生が減少したことによる減少が続いていましたが、前年度並でした。コロナ禍による医療への関心が高まったことに加えて、地方を中心に経済環境の悪化から職業に直結する医師を目指す理系上位層が他学部志望変更しなかったことが影響しました。医とは異なり、歯(94)は歯科医師の将来への不安と共通テストの平均点アップにより医からの歯への志望変更が減少したことによりやや減少しました。薬(107)は、医同様に職業直結型であることに加えて、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことから関心が高まり、やや増加しました。保健衛生(102)は比較的共通テストの目標ラインが低い地方公立大での設置が多く、共通テストの平均点アップの影響と地元志向によって微増となりました。

文理いずれからも志願者がいる系統では、オリンピック・パラリンピック効果が薄れたスポーツ・健康(83)は大幅減少し、この系統に含まれる学部で増加したのは埼玉県立大・保健医療福祉(健康)のみでした。教育を

2021 年度入試状況分析【国公立大】

取り巻く厳しい環境から敬遠されてきた教員養成・教育(97)ですがやや減少に留まり、前年度より減少率が小さくなりました。地方での厳しい経済環境により、就職直結型の系統として狙われた影響が見られます。総合科学(103)はやや増加で、この系統に含まれる兵庫県立大・社会情報科学<中>(174)の激増と新設された筑波大・総合選抜理系Ⅲ、群馬大・情報の志願者数が加わったことが影響しました。